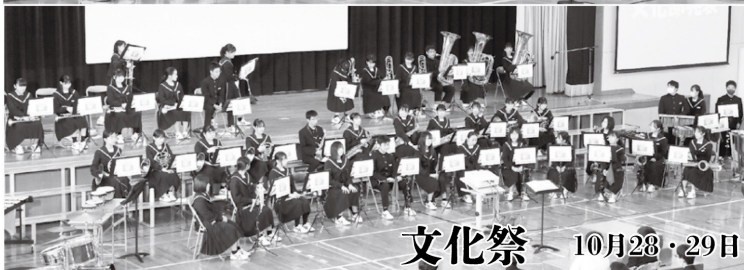


# 3年ぶりに歌声が体育館に響き渡る



文化祭 10月28・29日



発行所  
岡崎市立葵中学校  
(電話 21-0171)  
(FAX 21-0172)

12月号

## 個別最適な支援ができる

### 学校を目指して

校長 柴田 昌一

葵中学校は樹木が豊かです。紅葉が美しいので、近隣の方が撮影に訪れることもあります。そして美しい紅葉を見た後、木々は大量に葉を落とす。生徒と職員が毎日その葉を片付けます。片付けをしていると、葉にはさまざまな種類があり、葉の色づき方や葉の落とし方が樹木によって異なることに気が付きます。さて、樹木それぞれに個性があるように、葵中学校の学年や学級の雰囲気にもそれぞれ違いがあります。例えば、三年生は授業中もびんを張り詰めた緊張感があります。きちんと進路を把握していて、頼もしいなと思っ見ています。また、二年生は部活動を引く張る立場になり、校内での視野が広がりがつつあるなど感じます。一年生はすっかり中学生の顔つきになり、話す言葉や態度が大人っぽく変わりました。そして、合唱コンクールに向けた学級ごとの取り組みを経て、同じ学年でも学級によって雰囲気が変わってきたのを感じます。授業でも意見を活発にたたかわせたり、お互いの考えを尊重し認め合ったりできるようにした学級があり、それぞれの学級のカラーがより強くなったように思います。

学級は、一人一人違った個性をもつ生徒の集まりです。ただ、授業で生徒それぞれの個性を生かすことは簡単なことではありません。特に、四十名近く地在籍する通常級では、大型バスに乗って目的地に向かうような一斉授業を行うことが多く、一人一人の個性を生かすことは難しい状況です。一方、少人数の支援級では、個々の希望を聞きながらタクシード目的地向かうような学習を行うことができます。そのため、通常級よりは生徒の個性を生かした授業をすることができま

にはどのようなよい効果があるかと思いませんか。生徒は、耳で聞いただけで分るタイプ、自分でじっくり考えて納得するタイプなど様々です。すでに頭の中にある知識の量も違います。一人一人に合った適切な支援がないままに授業が進むと、取り残され、学ぶことを諦めてしまふ生徒が出てくるかもしれません。あるいは、すでに分かっているのに興味関心がないはず、学ぶことをしない生徒が出てくるかもしれません。生徒の個性に合わせた支援をすることで、取り残された生徒を減らし、より追究したい生徒を増やしたりする効果があるのです。

その個性を生かす手立ての一つが「チーム学習」だと考えています。「チーム学習」は四人を一単位として、生徒同士が分らないことを聞き合ひ、相互に学び合ひ、より高い合う学習方法です。教師はファシリテーター(※)として生徒の理解度や実態を見取り、重点的な支援を行います。授業の最後には、生徒が得た学びを振り返り、自分の成長を認知することで、次への学びの意欲を高めることができます。「チーム学習」には、少人数の支援級で行っているような生徒の個性を生かす学びの効果があり、生徒に「一分かる喜び」「より追究したい意欲」など、学ぶ楽しさを実感させることができます。と、考えています。

職員と相談し、3学期から「チーム学習」を手立てとした学習を積極的に取り入れていきたいと考えています。「チーム学習」は座席を四人組にして学習すればよい訳ではありません。生徒同士が分らないことを安心して聞き合ひ、学び合える環境を用意する必要があります。その上で、「個別最適な支援」を教師が行います。今の葵中学校であれば、それが実現できると思っています。どうぞご期待ください。

※ファシリテーター：生徒の発言を促したり意見を整理したりしながら、話し合いなどの進行を支援する役割。

# 文化祭

オープニング、作品展示、文化部発表、生徒会ステージ、合唱コンクール、そしてエンディングを通して、学級や全校の絆を強めることができました。

令和四年一〇月二八日(金)・二九日(土)

## 文化祭を終えて

後期生徒会長

私たちは文化祭を成功させるため、三週間ほど前から準備を進めてきました。前期生徒会役員とも協力しながら知恵を出し合い、全校生徒で文化祭を盛り上げる方法を考えてきました。

当日になり、二年生が体育館に入れなくなってしまうという想定外のことが起きました。緊張も重なって上手くいかないこともありました。でも、みんなで生徒会ステージを盛り上げたり、ダンスを踊ったりできてよかったです。

これからも、全校で何かを行うときには、全校生徒が楽しむことを一番の目標にして会をつくっていききたいです。



## Coda

吹奏楽部

文化祭は私たち三年生にとって最後のステージでした。部員同士でアドバイスし合い、悔いの残らない演奏をしよう、三年間の集大成を披露しようという懸命に練習に励みました。

本番では予期せぬトラブルも多々起きま

したが、四十四人で作り上げた最後のステージは、今までの努力の成果を存分に出し切ることができ、最高のものになったと思います。

仲間の大切さや、苦しと努力の結晶の素晴らしさを教えてくれた吹奏楽、部員、顧問の先生には感謝の気持ちでいっぱいです。この先、壁におつかったときは、吹奏楽部のことを思い出し、前向きに行動していきたいです。

## 創造・クリエイト

メディア部

メディア部は「創造・クリエイト」をテーマに活動してきました。

僕はパワーポイントを利用して、iPadの便利機能を紹介しました。少しの設定や工夫でiPadはとても便利に使えることをみなさんに知ってもらいたかったからです。部員の中にはゼロから自分で考えて作品を作って発表した人もいました。

メディア部のテーマに沿ったすばらしい作品だと思いました。

文化祭の作品展示

のコーナーには多くの人が集まり、楽しそうに見てくれていたことがとてもうれしかったです。

## 芸術部での三年間を振り返って

芸術部

芸術部は、先生の似顔絵クイズを出しました。明暗や色使いなど、よりリアルに描けるよう、部員同士でアドバイスしながら制作したので、個性豊かな似顔絵を楽しんでいただけたと思います。

また、常時活動である油絵の制作では、静物画や風景画などを完成させました。二年生の階段アートや一年生の油絵も展示でき、部員全員が一生懸命制作に取り組み、文化祭を盛り上げる一員になれたと思います。

先生方や部員のみんなのおかげで日々楽しく活動することができました。ありがとうございました。

## 文化祭を終えて

科学技術部

科学技術部にとって最大の見せ場となる文化祭。今年には「映える実験」をテーマに、風船、炎色反応、空気砲の三つの実験を行いました。部内で役割を決め、それぞれが魅せるために試行錯誤を繰り返して、そして何よりも自分たちが楽しむことを目標に練習を重ねました。本番では多少のアクシデ

## ★三年ぶりに開催 合唱コンクール★

### ●合唱コンクールの結果

#### ♪一年生の部

最優秀賞 六組「旅立ちの時」

優秀賞 五組「僕らの奇跡」

優良賞 一組「空駆ける天馬」

指揮者賞 六組

伴奏者賞 七組

#### ♪二年生の部

最優秀賞 五組「生きている証」

優秀賞 四組「キミのもとへ」

優良賞 六組「地球の鼓動」

指揮者賞 三組

伴奏者賞 四組

#### ♪三年生の部

最優秀賞 二組「信じる」

優秀賞 三組「リフレイン」

優良賞 一組「決意」

指揮者賞 一組

伴奏者賞 二組



### 心ひとつに頑張った合唱コンクール

一年六組

「聴いている人に気持ち伝わるように歌う。これを目標に練習に取り組んだ合唱コンクール。初めは、音程や声の大きさだけでなく、みんなの気持ちもばらばらでした。どうしたらいい合唱になるのか悩むこともありました。それでも、何度も練習をしていくうちに、音程も取れ、少しずつ声も出るようになり、合唱に大事なまとまりが出てきました。本番では、それぞれのパート、ピアノ伴奏、指揮がひとつになつて僕たちの思いが伝えられました。クラス一丸となつて臨んだ合唱コンクールで、クラスの絆がより深まりました。」



### 二年五組の絆

二年五組

「生きている証。この曲は、生きる喜びや仲間との絆をテーマとしています。練習を始めた頃はどのパートも歌声が小さく、課題が山積みでした。僕たちは、悪いところや改善点を何度も話し合い、一つ一つその課題を克服していきました。僕は、伴奏者として、一つにまとまっていきたいという変化を一番感じていました。最優秀賞に輝いたことはとてもうれしかったです。でもそれ以上に、その喜びを二年五組の全員で感じられたことが、すばらしい大切な思い出となりました。この思い出こそ僕たちの「生きている証」です。」



### みんなで取った最優秀賞

三年二組

中学校生活初の合唱コンクール。うまくいかないことが多く、アルトパートのリーダーとして、たくさん悩みました。なんとかしようとしてemsで気づいたことを伝え、質を高めました。本番一週間前の話し合いでは、人によっては涙を流しながら練習への取り組み姿勢や合唱への思いを語りました。「信じる」を歌う中で自分たちの思いを訴えることができるようになったと思います。

「最優秀賞は二組です」。学級では、歓声が上がりました。こんなにも喜べたのは、全員がお互いを信じ、必死に練習してきたからだと思います。この経験は私たちの宝物になりました。」



### 二学期を振り返って

一年三組

僕がこの二学期で心に残っていることは二つあります。

一つ目は体育大会です。最初は不安もあがり緊張していましたが、個人種目でもいい順位を取れてうれしかったし、学級対抗リレーの四人でバトンをつなぎながら思い切り走ったことも、とても楽しかったです。体育大会を通してクラスの仲間との絆を深めることができました。

二つ目は文化祭です。文化部発表や生徒会ステージでは、クラスを見渡すやみんな笑顔で楽しんでいて、他のクラスからも楽しそうに笑い声や歓声が上がって、学年全体でも楽しく過ごせました。合唱コンクールでは、本番直前に自信をなくしてしまいうだつたけれど、全力を出し切つて歌えてよかったと思う、歌い終わった後の達成感でみんなが笑顔になつているのを見てとてもうれしかったです。

二学期は不安や緊張を感じながらも、どんなときでも何事にも最後までやり切り、笑顔で終えることができました。三学期も、みんなで楽しく過ごせるように、クラスや学年の仲間を全力でサポートしていきたいと思っています。

### チャレンジ

二年四組

僕の二学期は「チャレンジ」という言葉が似合う学期でした。チャレンジの一つ目は、級長に挑戦した

ことです。学級や学年全体のことを考えながら、行事の計画を自分たちで立て行動したことで、考えの幅が広がったと思います。

チャレンジの二つ目は、学習に今まで以上に挑戦したことです。先輩方が入試に向けて頑張っている姿を見て、勉強への姿勢を見直し、今まで以上に時間をかけるようになりました。

チャレンジの三つ目は、級長として合唱コンクールに挑戦したことです。「全員が笑顔になれる合唱」を目指し、何度も練習をしたり、仲間同士で励まし合ったりしたことで、クラスの絆がさらに深まりました。

三学期には、スキー研修があります。自律に向けて、全力でチャレンジし、技術を磨き、友達との絆を深めていきたいです。

### 最高の仲間

三年二組

二学期の中でいけばん心に残っている行事は、合唱コンクールです。コロナ禍で一、二年生のときに体験できなかった私たちにとっては、初めての合唱コンクールとなりました。最初は、どのように練習をしていったらよいか分からなかったり、あまり真剣になれなかったり、みんなの気持ちがいればらでした。でも、やるからにはより良いものを作り上げたいとクラスみんなで話し合いを行い、少しずつ気持ちが高まっていきました。クラスで最高の「信じる」を作り上げるため、毎日毎日試行錯誤を重ねました。このクラスの仲間とだからこそ作り上げられたのだと思います。

合唱コンクールを通してクラスの仲間が最高の仲間となりました。

### 伊賀川プロジェクトに参加して

#### 守り続けていきたい伊賀川

三年六組

七十年以上も前から行われている伊賀川プロジェクト。

この活動について考えてみると、なくてはならない活動だと私は思います。そう感じたのは、実際に参加したからです。伊賀川プロジェクトは、参加者が伊賀川沿いを清掃し、球根を植えます。私もスイセンの球根を植えました。達成感があったのでまた参加したいと思いました。今回の活動範囲は三十mです。あんなに大きな伊賀川のまだ一部分しか植えていませんが、これからもこの活動を引き継いで、いつか葵中生の力で伊賀川全体が花いっぱいになることを私は願っています。



#### 前期生徒総会を終えて

前期生徒会長

前期の生徒会長に就任して、初めは自分に務まるかどうか、不安な気持ちもありましたが、先生方や生徒会のメンバーに支え

られて、やり遂げることができました。

この生徒会活動を通して学んだことは、今までのルーラーを変えることの大変さです。ルーラーを変えることが

正義だと決めつけて進めていくのではなく、様々な立場の人の視点から意見を取り入れ、話し合いを重ねて考えていくことが大切だと感じました。

このような経験を生かして、これからも学校がよりよいものとなるようにできる限りのことをしていきたいです。

#### 岡崎市理科作品展において『未来の科学者賞』受賞



#### 市社会科作品展

入選

#### 市理科作品展

未来の科学者賞  
入選

#### 市作文コンクール

最優秀賞

#### 赤い羽根作品コンクール

ポスターの部 金賞

#### 税についての作文

岡崎税務署管内税務協議会長賞

#### 人権作文コンテスト

奨励賞

#### 社会を明るくする運動作文

佳作

#### 創造アイデアロボットコンテスト

優勝

#### 愛知県中学生新人陸上競技大会

一〇mH 四位

#### さわやか健康リレー

クォーター男子の部 一位

#### クォーター女子の部

一位

#### 今後の予定(一月)

10日(火) 始業式

11日(水) 給食開始

16日(月) 岡崎学力検査(1・2年)

17日(火) 私立専修推薦入試

20日(金) 委員会・三年総合テスト

23日(月) 私立専修一般入試

24日(火) 三年保護者会

31日(火) 2年スキー研修(2月2日)

### 表彰の記録

# 葵が丘

#### 自己の確立を目指して

生徒指導主事 小林 怜司

刻々と変化する社会の中で、子どもたちが希望をもって、自立的に自分の未来を切り拓いて生きていくためには、様々な価値観をもった人たちと尊重し合いながら生きること、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指すことが必要だと考えている。

十一月に行われた学校保健委員会では、相手の気持ちを考える「配慮のスキル」。自分から相手に関わる「関わり方のスキル」について実践を交えて、ソーシャルスキルの向上を図った。また、道徳科の授業では、他者の多様な考え方や感じ方に触れることで物事を一面的に捉えるのではなく、多面的・多角的に考え、事象を自分自身の問題として受け止め、伸ばしたい自己を深く見つめられるように心掛けている。

中学という時期は、誰もが激しい心の揺れを経験するものである。しかし、その中においても夢を膨らませ、理想を描くことが、その後の人生に大きな意味をもつ。生徒一人一人がこのことを理解した上で自分の夢や理想をしっかりと見つめ、その実現に近づけるように支援していきたい。